



TITLE:

## 1.概要(VI 共同利用研究)

AUTHOR(S):

---

CITATION:

1.概要(VI 共同利用研究). 霊長類研究所年報 1996, 26: 69-70

ISSUE DATE:

1996-11-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/164849>

RIGHT:

## V 共同利用研究

### 1. 概 要

昭和57年以来、研究課題として「計画研究」並びに「自由研究」を併置し、昭和62年度には「資料提供」を設置した。さらに平成6年度から「所外供給」を新たに設置し、これらに係る共同利用研究が実施されている。

「計画研究」とは、本研究所内推進者の企画に基づいて共同利用研究者を公募するもので、個々の「計画研究」は3～5年の期間内に終了し、まとめた成果を公表する。

「自由研究」とは「計画研究」に該当しないプロジェクトで、応募者の自由な着想と計画に基づき所内対応者の協力を得て、継続期間3年を目処に研究が実施されている。

「資料提供」とは、資料（体液、臓器、筋肉、毛皮、歯牙・骨格、排泄物等）のみを提供する共同研究として実施されている。

「所外供給」とは、本研究所以外の研究機関で行うことがより適切な研究のために、生体のサルを所外に供給するものである。

平成7年度の計画課題、応募並びに採択状況、研究会等の概略は以下のとおりである。

#### (1) 計画研究

(実施予定年度：課題推進者、下線は代表者)

##### 1. 野生ニホンザルの現状把握に関する方法の開発と保護管理学の構築

平成7～9年度：渡邊邦夫・東 滋・鈴木 晃

野生ニホンザルの地域個体群とそれをめぐるさまざまな環境条件をもう一度見直しながら、猿害のおこるメカニズムとその防御法、社会的あるいは歴史的な要因の分析、鳥獣保護および狩猟等関連法案の検討など、野生ニホンザルの保護管理に関する総合的な方法論の確立を目指す。

##### 2. ニホンザルの個体数、地域特性、環境要因の定量的把握

平成5～7年度：杉山幸丸・川本 芳・後藤俊二  
・山極壽一

1. 採食量と環境許容量の把握。2. 個体数パラメータとその変動要因の把握。3. 生物的・環境的特性をふまえた（餌付けを含む）ニホンザルの多様性の質的・量的把握。4. 地域的・全国的視野でのニホンザル個体数の変動要因の解明。等、比較検証の可能な定量的把握を必須条件とする。

##### 3. 類人猿の発達とその生物学的基礎

平成7～9年度：松沢哲郎・小嶋祥三・藤田和生  
・友永雅己・木村 賛・松林清明

霊長類のなかでもとりわけヒトに近縁な類人猿を主な対象として発達とその生物学的基礎の研究をする。ヒトやその他の霊長類を対象とした比較研究でもよい。姿勢・運動、学習行動、コミュニケーション、社会的な場面での行動などの研究と、発達の基礎となる形態学的・生理学的研究との関連を追求する。

##### 4. 霊長類の社会関係と脳進化

平成5～7年度：澤口俊之・久保田競・三上章允  
・大澤秀行

霊長類の社会関係と脳の大きさや機能、構造との関係を社会生態学、神経科学、心理学、進化生態学など多方面から解析し、社会関係と脳進化の関係を総合的に明らかにする。実証的な研究の他に理論的な研究（数理モデルやシミュレーションなど）も積極的に行う。

##### 5. 霊長類における視知覚および視覚認知の特性とその脳内機構の研究

平成7～9年度：三上章允・藤田和生・友永雅己  
・澤口俊之・久保田競

霊長類における形態視、色彩視、立体視、運動視などの視知覚、および視覚認知の機構を心理物理学的手法および神経生理学的手法によって解明するとともに、霊長類における視知覚と視覚認知の特性をヒトとの比較において考察する。

##### 6. 食性との関連からみた霊長類の歯牙形態の変異

平成7～9年度：高井正成・國松 豊

歯牙形態の比較による現生及び化石霊長類各群の系統分類を行う。また機能形態学的な立場から、歯牙あるいは顎骨の食性との関連を明らかにする。

#### 7. 生体分子の構造解析による霊長類の

平成7～9年度：竹中 修・景山 節・庄武孝義

核やミトコンドリアDNAの微少変化やダイナミックな変化、あるいは微量タンパク質の高感度分析やcDNA分析等、生体分子の構造変異を生化学的、遺伝学的手法により調べ、霊長類の系統・進化を明らかにする。

#### 8. 霊長類の比較遺伝子マッピングと染色体進化理論に関する研究

平成6～8年度：平井啓久・川本 芳・庄武孝義  
・相見 満

ヒトとその他各種霊長類間の遺伝子あるいは特定DNAの比較マッピングを行い、染色体の保存性および変異性を把握する。一方、核型およびC-バンドパタンの数量的解析に基づき、霊長類の染色体進化の方向性および染色体変異と種分化との関連を理論的に探る。

#### 9. 霊長類の生体防御系と疾病・病態に関する研究

平成6～8年度：中村 伸・松林清明・後藤俊二  
・鈴木樹理

霊長類の免疫-止血系を含めた種々生体防御機構や疾病・病態について、基礎から臨床に至る幅広い研究を進める。これらの研究を通じて、生体防御や疾病の面からの霊長類の種特性、適応・進化、実験動物化等も検討する。

## (2) 応募および採択状況

平成7年度のこれらの研究課題について、106件(172名)の応募があり、運営委員会共同利用研究専門部会(浅野俊夫、和秀雄、丸橋珠樹、石田英實、竹中修)並びに共同利用研究実行委員会(杉山幸丸、林基治、景山節、毛利俊雄、友永雅己)との合同会議において採択原案を作成し、協議委員会(平成7年2月8日)の審議・決定を経て、運営委員会(平成7年2月22日)で了承された。

その結果、102件(165名)が採択された。各課題についての応募・採択状況は下記のとおりである。

課 題	応 募	採 択
計画1	5件(12名)	4件(9名)
2	5件(11名)	5件(11名)
3	4件(6名)	4件(6名)
4	1件(1名)	0件(0名)
5	3件(6名)	3件(6名)
6	5件(8名)	5件(8名)
7	3件(4名)	2件(2名)
8	4件(4名)	4件(4名)
9	7件(12名)	6件(10名)
自 由	57件(89名)	49件(76名)
資 料	9件(13名)	18件(29名)
所 外	3件(6名)	2件(4名)

## (3) 研 究 会

平成7年度は、以下のとおり5件の研究会が採択・実施された。

1. 霊長類の老化
2. 認知科学の動向
3. ニホンザルの現況
4. ニホンザル純野生群における長期研究
5. 第25回ホミニゼーション研究会  
「進化と共生」